

自然館だより

第2号

令和3年10月
発行
豊北町自然
観察指導員会
〒759-5332
下関市豊北町
角島 893-1
つしま自然館
083-786-0430
(兼 Fax)

角島の瀬戸のわかめは人のむた
荒かりしかど我とはにぎめ
詠み人知らず
万葉集 第16巻(3871)

「自然館だより」随分と休止していました。世はSNSの時代、ネットで情報発信していくのが当たり前のようになりました。

遅ればせながら、当指導員会もネットを活用して活動報告をし、当会を理解して頂いて、ご支援を仰ぎたいと存じます。

自然観察に基づいた俳句会

この十月三十日「俳句会」を持ちました。自然観察指導員会が開催するのですから「自然観察」を重視しました。物を見、音を聞き、物に触り、匂いを嗅いでみる。差し障りが無ければ、味もみる。五感を通して自然を理解して、胸に留めた思いを句に詠む。

講師には菊舎顕彰会の前会長の岡昌子氏、現会長の磯部多恵子氏にはアシストして頂きました。講師を含めて十二名の参加がありました。



大浜キャンプ場
草木や生きもの探索
見て聞いて嗅いで触って

つしま自然館入り口に咲いている「ダルマギク」の説明からはじめて、大浜の「コウボウムギ」や「コウボウシバ」を紹介して、自然観察は終わり。館にもどって俳句づくり。十二名の作品を紹介します。年齢は一枚の小学生から八十に近い元気な方までいらつしやいました。

マスクして集ふクジラの骨の下

鯨骨の標本見上ぐ暮れの秋

晶子

多恵子

沖を往く黒きタンカー秋惜しむ

みえ子

角島の砂洲を横切る蝗かな

若代

浜の秋コウボウ麦の穂のゆるる

高弘

角島の砂浜白し海桐の実

裕三

浜風と手を取り咲くよダルマギク

誠

つしまにことりもきたよほくもきた

そうた

筆草の寄り添ひ合ふて浜の秋

敏男

秋の波打ちよす浜の石なげる

光誠

秋潮やマスクずらして深呼吸

光子

灯台を背に写真とる秋の浜

あゆみ